

入学前課題「絵本を読む」から本学の学びへ

鳥丸 佐知子

絵本は保育現場で使用される重要な教材の一つである。その絵本に少しでも早く親しんでもらうために設けられた入学前課題として「絵本を読む」がある。この課題を通して、入学前に絵本に触れる経験をするのは、入学後、本学での学びの中でどのように生かされるのか。『発達心理学』の授業外課題「絵本ノート」と、『特別支援保育』の授業に関するアンケートから探った。その結果、絵本を読む時どこに注目すべきか、その視点に関する基礎力が身に付くことが明らかになった。

キーワード：絵本、入学前課題、絵本ノート、発達心理学、特別支援保育

1. はじめに

子どもたちは本と触れ合うことによって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものとし、人生をより深く生き抜く力を身につけることができる。この読書の持つ価値を認め、子どもたちの読書活動を、国を挙げて応援するため、1999（平成 11）年 8 月、2000（平成 12）年を「子ども読書年」とする決議がなされた。また引き続き、2001（平成 13）年 12 月に議員立法により、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定された。その 10 条では 4 月 23 日を「子ども読書の日」と定めている¹⁾。

一方で、1 ケ月に 1 冊も本を読まない子どもの割合は依然として高い。また自治体における取り組みにも、地域間の差が顕著であるなどの課題が山積しているという¹⁾。

独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書」（平成 25 年 2 月）によると、子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高いというデータが示されている。さらに、読書活動の中でも特に幼児期や小学校低学年に、本や絵本の読

み聞かせをしてもらった経験や、絵本を読むといった経験が多い中学生や高校生ほど、未来志向や社会性などの現在の意識・能力が高いということも明らかになっている⁶⁾。

絵本は、子どもから大人まであらゆる世代が手に取って感動を共有できるベースとなる本である。例えば、赤ちゃんが自治体の健診などを受診する際に、絵本をプレゼントされる「ブックスタート」などは、赤ちゃんとの出会いを創出する素敵な事業の一つであると言えるだろう。

人々を豊かにする絵本、その絵本とめぐり合う環境として、幼稚園や保育園などに勤務する保育者も重要な役割を担う人物である。保育所や幼稚園における保育実践において、絵本の活用法は実にさまざまである。例えば保育者による絵本の読み聞かせは日常的に行われ、園児が保育室にある絵本を、自ら自然に手に取る機会も多い。絵本は子どもたちにとって、とても身近な存在なのである¹⁾。

鳥丸（2015）^{4) 5) 6)}等の研究では、本学の『発達心理学』の授業外課題として現在も続いている「絵本ノート」について、アンケート調査を

実施し、いくつかの観点から学生の意識調査を行った。結果は学生の絵本に対する関心の深さを改めて浮き彫りにしたが、その中でも引用されている小寺・瀧川・玉置(2004)²⁾³⁾等によれば、保育実践における絵本の持つ意味として、①幼稚園教育要領、②保育所保育指針、および③保育内容「言葉」のテキストの類という3つの観点があると記されている。さらに彼らはそれぞれについて、保育者との役割についても考察している。

まず幼稚園教育要領と保育所保育指針での「絵本」とは以下のように考えられている。

保育という現場における「絵本」は、まず「子どもと絵本の出会い(=物的環境としての絵本の存在への気づきがあって、それに興味を持つ)」ということから始まる。そして次に「言葉の発達過程に沿って絵本を通しての言葉の持つリズムや、言葉そのもののおもしろさに気づく」段階に入る。次にそのような経験を通して「言葉の感覚が豊かになるきっかけの一つ」としての役割をする段階がある。その後、そういう「言葉のおもしろさに気づき」「内容そのものへの興味」にいたる過程があり、最後に「絵本の中に描かれた世界」を通して、その子自身の「イメージの広がり」と「想像力豊かになる」という流れ(構造)があるという。

また絵本との出会いには、必ず保育者の援助が伴うこと、さらに絵本は、子どもと保育者のコミュニケーションの場としての、重要な役割もあると述べられている。

それでは保育内容「言葉」のテキストの類から読み取れる「絵本」についてはどうなのか。

保育の場においては「子ども」は「保育者」を媒介に「絵本」と出会う。そして「絵本」を媒介に「保育者・友だち」とかかわり、そうしたさまざまな経験を含めて「言葉」を獲得する。さ

らに、それら獲得した「言葉」をベースにして「未知なる世界」や「想像の世界」「物語の世界」などのイメージを広げ、豊かな想像力をもって多くの言葉や表現を獲得していくという流れをたどる。

そしてここでも、より良い絵本環境を整えるためには、保育者自身が子どもの発達過程を十分に把握し、一つ一つの絵本の特性を捉え、目の前にいる子どもたちにとって、必要な絵本を把握することなど、保育者側に多くの技術が求められる。つまり保育者自身が、事前にたくさんの絵本に触れ、絵本に関心を持ち、その魅力について学ぶ必要があることが明記されているのである。

本学に伝統的に存在していた「絵本ノート」について、ここで再度簡単に振り返る。従来の「絵本ノート」は1回生通年の課題で、絵本のみでなく児童書なども含む50冊以上について、1冊につきノート1ページを使用し、あらすじや感想、イラストなどでまとめ、すべて完成させてから提出するという形をとっていた。課題として取り上げる絵本等の種類も細かい指定があり、大変な時間と手間を要する課題であった。当時はオープンキャンパスでこの課題の存在を知り、入学前からこの課題に取り組むことを楽しみにしている学生や、保育所などの就職試験の折に、自分の絵本ノートを持参する学生もいたそうである。この当時から、本学では「絵本」を重要な教材のひとつとして位置付けていたのである。

しかし筆者がこの課題を引き継ぐにあたり、当時とは質の異なる学生が多く入学していることを考慮し、体裁もノート形式ではなく、A4サイズの紙を使用し、基本的には毎回の授業終了後に提出するよう変更した。また頑張ったものにはそれなりの評価ができるよう、ポイント制

も導入した。授業回数は15回なのでベースになる冊数は15冊とし、15冊に満たない場合は減点、15冊以上提出した場合は加点する。記入内容に細かい決まりは設けなかったが、絵本の題名・著者・出版社・イラスト・絵本の内容を要約した文章・自分なりの感想やおすすめポイント等を分かりやすいようにまとめるよう指示した。また提出されたものについては、筆者のみでなく、大学院生（TA）にも読んでもらい、印鑑（「よくできました」等のコメントがあるトトロやキティ等のキャラクターもの）と簡単なコメントを添え、次回授業時に返却する形をとっている。そして最終的には、すべての「絵本ノート」を1冊のファイルにまとめ、表紙と目次を付け加えて提出してもらう。こちらに対しては全体の感想を書いたコメントカードを添え、1回生後期のオリエンテーション時に返却する（『発達心理学』は1回生前期開講）。この数年、この形式を継続しており、おおむね好評である。

さて、近年AO入試等がかなり早い時期から実施され、入学予定の生徒にとっては、合格の内定時から実際に入学するまで、かなりの時間があるようになった。当然のことながら、高校時代は高校生としての勉強が最優先されるべきではあるが、その期間を有効に利用して、入学後スムーズに大学に適応できるよう、入学後の学習に関連付けられた『入学前課題』を提供する大学も増えてきた。

本学では絵本に関するものとして「絵本を読む」という課題を提供している。この課題の目的は、①「絵本に関する興味・関心を持ち、深める」②「絵本の感想を自分の言葉で表現する」のふたつで、課題内容は最低5冊、自分で好きな絵本を選び、絵本のタイトル、作者名、出版社名、絵本のあらすじ等をまとめるものである。

本論文は、この入学前課題の一つである「絵

本を読む」は具体的に入学後の学習とどう結びついているのか、特に『発達心理学』の授業外課題「絵本ノート」を作成する上でどのように関係しているか（もしくは関係していないか）を調べようとするものである。

なおこの「絵本を読む」と入学後の授業科目の一つである『特別支援保育』（1回生後期開講）との関連については張（2022）^{8）}によって既にまとめられたものがあり、その結果も参考にしながら、授業におけるこの課題の活用法について考えていきたい。本学は2021年度より「認定絵本士養成講座」を立ち上げ、希望すれば、絵本に関してさらに専門的な知識を身につけられる機会の提供も可能になった。保育の現場で、より有意義な絵本活用ができる学生を輩出するために、在学中にどのような支援が可能なのか、それらも同時に探っていきたい。

2. 方法

（1）調査対象者

1回生の前期に、『発達心理学』を受講した女子短期大学生中で、今回のアンケート用紙を提出した97名

（2）調査時期

『発達心理学』の初回授業時（2022年4月6・12日）と最終授業時（2022年7月19・20日）の2回に分けてアンケート調査を実施した。

（3）調査内容

<初回>

1) 入学前課題「絵本を読む」について

- ①何冊読みましたか
- ②取り上げた絵本を50音順にすべて記入してください
- ③この課題に取り組んでの感想

(良かった点や難しかったこと、気付いたことなどを自由に書いてください)

<最終回>

2)「絵本ノート」について

- ①何冊読みましたか
- ②取り上げた絵本を 50 音順にすべて記入してください
- ③入学前課題「絵本を読む」と重なっている絵本はどれですか
- ④入学前課題「絵本を読む」は「絵本ノート」を作成するとき何か役に立ちましたか?
- ⑤この課題に取り組んでの感想
(プラスマイナス両面から答えてください)

(4) 倫理的配慮

なお調査対象者には、インフォームド・コンセントを行い、本研究への協力に同意したものを調査対象者とした。回答は任意であること、回答の拒否や中断は可能であり、そのことによる不利益は生じないこと、回答者個人を特定しないものであること、教育・研究の目的以外には使用しないことを口頭で説明し了承を得た。

3. 結果

入学前課題「絵本を読む」と「絵本ノート」との関係について分析する前に、すでに分析が終了している『特別支援保育』の授業の中で実施された、張 (2022)⁸⁾ の調査結果から、一部を抜粋して報告する。こちらはグーグルフォームを用いて実施された。回答率は 98% であった。質問は全部で 12 問あり、①そう思う②ややそう思う③あまりそう思わない④そう思わないの 4 件法で行われた。

<質問内容> (Fig.1 に対応)

1. 幼少期から絵本に親しんでいた。
2. 入学前から、保育者として絵本の知識が必要だと思っていた。
3. 入学前から、絵本に興味があって手に取って読むことがあった。
4. 入学前課題の「絵本を読む」課題は、楽しんで取り組むことができた。
5. 入学前課題の「絵本を読む」課題を作成したことで、絵本への興味を持てた。
6. 入学前課題の「絵本を読む」課題を作成したことでもっとたくさんの絵本を知りたいと思った。
7. 入学前課題の「絵本を読む」課題を通して、絵本が子どもに与える影響を学びたいと思った。
8. 入学前課題の「絵本を読む」課題を通して、子どもの発達や心身の状況に応じた理解と指導を学びたいと思った。
9. 入学後の授業で、「絵本を読む」課題は、役に立った。
10. 今回の授業で、絵本の効果には様々なものがあることが分かった。
11. 絵本を知ること、保育者になることへの不安が軽減された
12. 絵本について保育者として、さらに学びたいと思った。

張によると、2022 年度入学者の 78.7% が幼少期から絵本に親しんでおり、91.3% が保育者として絵本の知識が必要だと思っていたと回答した。入学前から絵本に興味を持ち手に取って読むことがあったのは 55.3% であるが、44.7% の学生は入学前から絵本を手を取ることはなかったと回答した。また、「絵本を読む」課題に楽しんで取り組むことができたのは 89.3% であり、課題を作成したことで絵本への興味を持てるように

なったのは94.2%、さらに絵本を読みたいのが94.2%だったと報告している。

アンケートを実施した回の授業では、まず障害理解の絵本を紹介して、課題をグループ発表した。その後、アンケートを実施したが『特別支援保育』との関係では、97.1%が絵本が子どもに与える影響について学びたい、96.1%が子どもの発達や心身の状況に応じた理解と指導を学びたい、90.3%が課題作成は入学後の学びに役に立ったと答えた。また、今回の授業を通して、絵本の様々な効果があることが分かったと答えたのは100%にのぼったという。さらに保育者になる不安は軽減されたが47.6%（軽減されず

52.4%）、さらに学びたいが59.2%（そう思わない40.9%）であった。

以上の結果により、絵本に関する課題作成と授業の受講によって、約半数の学生が入学後の学びへの不安軽減に効果があったと答え、効果がなかったと答えた学生も、効果がなかったという理解より、課題に取り組み学ぶことで更なる学びの必要性を感じ、不安が増加していると推察されると結論付けている。

次に鳥丸の今回のアンケート結果について実施日ごとに結果をまとめていく（なお本論では、学生が取り上げた絵本の具体的な内容については取り上げない）。まず初回授業で行ったアンケート結果について、①についてはFig.2に示すとおりである。全体の約61%にあたる61名が指定された最低冊数の5冊を読んでいた。10冊読んだものが12名で2番目に多く、以下6冊、7冊、8冊と続いた。次に③に関して、典型的なコメントについて、それぞれ具体例を示したい。

<良かった点>

- ・小さいころに読んでいた絵本を、大きくなってからは読む機会がなかったので、すごく懐かしい気分でした。
- ・子どもの頃に帰ったような気がして楽しかった。
- ・普段は絵本について感想などを考えたりしないので、考える機会があってよかった。
- ・どんな絵本が子どもに楽しんでもらえるのか考えながら読むのは良かった。
- ・絵本を読む機会が増えたことが良かった。

<難しかったこと>

- ・文章が少ない絵本は感想を書くのが難しかった。
- ・作者がどんな意図で何を伝えたいと思ってこの絵本を作ったのかを考えるのが難しかった。
- ・感想を埋めることが難しかった。

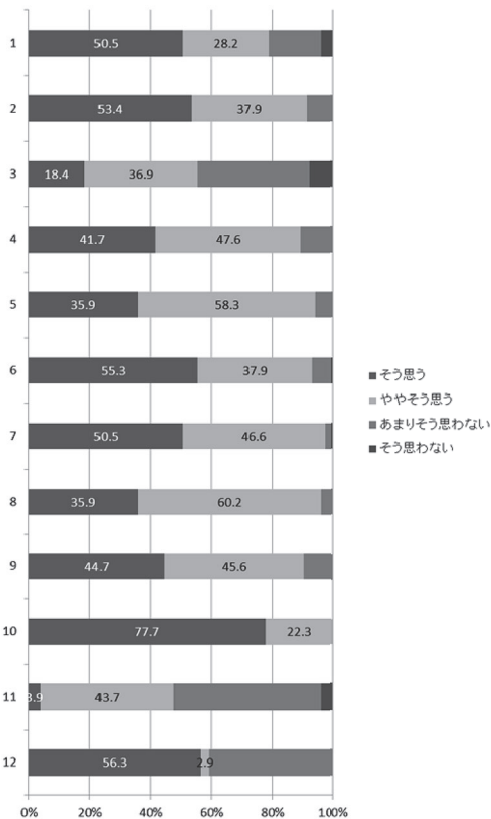


Fig.1 入学前課題「絵本を読む」と『特別支援保育』との関係について⁸⁾

・この絵本が何を伝えたいのか、筆者の意図について考えるのが難しかった。

・絵本を読んであらすじを書くのが難しかった。

<気づいたこと>

・大人の視点から見る絵本は初めてだったので、新しい発見がたくさんあって面白かった。

・大きくなってから読むと、受け取る感情が小さいころと違っていった。

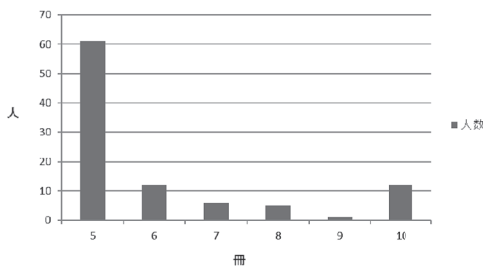


Fig.2 入学前課題「絵本を読む」課題の提出枚数

・最初難しそうな課題だと感じていたが、やってみると楽しかった。

・久しぶりに読んでみると、一つひとつの絵本には、筆者の子どもの成長を促す考えがあると気づいた。

・この絵本は何歳くらいの子にぴったりなのかと考えながら読むと、いつもとは違う見方で読むことができて楽しかった。

・子どもと読んだらこの言葉はどんな反応するかと考えながら読むと楽しかった。

・どの絵本も沢山の色が使われていて、カラフルで絵も可愛く、読んでいて気持ちが穏やかになった気がする。

次に最終回に実施したアンケート結果についてまとめる。「絵本ノート」課題はノルマが15冊であるが、最も多かったのは15冊作成した人で、全体の40%にあたる39名であった。以下16冊

が19名、17冊と19冊が7名と続く。今回最も多く作成したのは30冊で4名であった(Fig.3 参照)。

次に、今回の論文のメインテーマとなる質問、④入学前課題「絵本を読む」は「絵本ノート」の作成に役にたったかという問いについてまとめる。

全体の90%強にあたる90人が何らかの形で役に立ったと回答した。以下、役に立たなかったが5名、その他が2名であった。役に立った理由として挙げられた具体例を以下に示す。

<役に立った理由>

・入学前課題で「絵本にはこういう意味がこめられているのか」という考えを身につけることができたと思う。そのため「絵本ノート」を作成するとき、題名に興味を持っただけでなく「この絵本のねらい」について知りたいと考えるようになり、進めていくことができた。

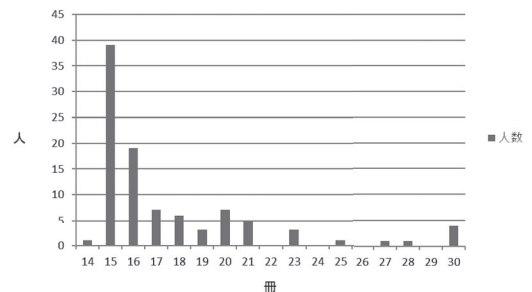


Fig.3 「絵本ノート」課題の提出枚数

・絵本を読む上で、子どもたちに読み聞かせをする時、何を伝えたいかなどを考えながら取り組むようになった。内容を重視して絵本を選ぶようになった。

・入学前課題「絵本を読む」で書いた感想を思い出しながら、「絵本ノート」作成では絵本を選

んだ。

- ・ どうやって感想やあらすじを書けばよいか知ることができて役に立った。
- ・ あらすじや感想を書くいい練習になったと思う。
- ・ 作者が何を伝えたいのかを読み取ることができるようになった。
- ・ 絵本を読んだ時の感想の書き方について役立てることができた。どこに注目して読んだら、後から感想を書くことができるのかなどを知ることができた。
- ・ 入学前課題に取り組むことで、絵本をどのような視点でとらえたらいいのか、「あの絵本はこうだった」と比較したりすることができた。
- ・ 筆者が子どもに何を伝えたいのか、言葉や絵の工夫に注目して読むことができた。
- ・ 普段絵本を読む機会がほとんどない中で、具体的に絵本に触れることで、より面白そうな絵本を探すことができた。また他にも読んでみようと思う気持ちも出てきた。
- ・ 絵本が何を伝えたいのか、絵本の構成、子どもが喜ぶしかけ、擬音語の効果など、絵本のどの部分に注目すればいいのかを入学前課題で学び、「絵本ノート」に生かすことができた。

最後にこの課題に取り組んでの感想をプラス面とマイナス面の両方から質問したが、そこで述べられた理由の具体例について以下に示す。

<プラス面>

- ・ 沢山の絵本に出会って絵や物語に触れられたこと。またその結果、本が本当に伝えたい意味や内容を読み取れるようになった。
- ・ いろいろな絵本に触れることで、何歳児向けの絵本か、何を伝えようとしているのかなどが少しわかるようになった。

・ 今まで読んだことのない絵本に沢山出会うことができた。

- ・ 絵本を探す楽しさが十分味わえたこと。
- ・ 普段あまり本を読まない私にとって、こういう機会があることで自分から絵本を選んで読むという行動ができたこと。
- ・ 子どもの頃は「絵が好き」「可愛い」「面白い」という理由で気に入っていたことが多かったが、大人になって読むと、作者の隠されたメッセージのようなものを汲み取れるようになり、そこに共感して選ぶ自分がいることに気づいた。
- ・ さまざまなジャンルの本に出会うことができた。
- ・ 自分で絵本をまとめることで、デザイン力や表現力を身につけることができた。
- ・ この絵本は何歳に使えるかなどが少しずつ考えられるようになった。
- ・ 絵本は子どものための文化財だと勝手に思い込んでいたが、大人になって読むことで、より深みが出ることを知ることができた。
- ・ 絵を描くのが少しは上手になった気がする。
- ・ 絵を描いて塗る作業が苦手な私は、最初この課題に苦しんで取り組んでいたが、だんだん伝えたいことがたくさんあふれてきて、書きたいことが増え、短時間で作成できるようになった。
- ・ 子どもにどんな風に読みたいか考えることができた。保育の現場で役立ちそう。

<マイナス面>

- ・ 他の課題と重なってしまった時、大変に感じた。
- ・ 「絵本ノート」をため込みすぎたときがあったこと。絵本を見つけて読んでそこで満足してしまいなかなか課題に取り掛からなかった。
- ・ 自分の好きな内容の絵本に偏ってしまい、同

じようなストーリーのものばかり選んだこと。

・作成に時間がかかってしまい、他の課題との両立が大変だった。

・(あまりないが、あえて言えば) 絵を描いて字も書いて手が痛くなること。

・自分の文章力のなさが目立ったこと。

・絵にこだわり、感想があまり書けなかったこと。

・こだわりすぎた。1 冊につき 2、3 時間かかって他の勉強ができなかった。

4. 考察

近年本学でも、絵本に限らず「本を読まない」学生は増えている。また「文章が書けない」「自分の頭で考えようとしない」など、基本的な学力が不足している学生も増加傾向にある。

前述のように、入学前課題「絵本を読む」の目的は①「絵本に関する興味・関心を持ち、深める」②「絵本の感想を自分の言葉で表現する」の二つであるが、まず課題として設定されることで、入学予定の生徒は、必然的に 5 冊の絵本を読まなければならない。また選んだ絵本について、自分なりに解釈し自らの言葉で感想を述べなければならない。

『特別支援保育』『発達心理学』二つの授業の中で実施されたアンケート結果を見ると、幼少期から絵本に親しんでいたものが多いが、この数年は、かなりの生徒が、絵本を読む機会を持たなかった現実が浮かびあがってくる。しかしながら、保育者になるためには、絵本の知識が必要ではないかと感じている学生も多いことが分かる。

またどちらかというと、「絵本を読む」という課題に楽しんで取り組んでおり、その結果として、5 冊のみで終わらず、もっとたくさんの絵本が読みたいと感じるようになったものも多かった。

中にはこの「絵本を読む」課題で、すでに 10 冊取り上げた生徒もあった。また課題に取り組む中で、絵本には幼いころ感じた「可愛い」「面白い」という感じだけではなく、もっと沢山の魅力がありそうだと気づき始めている生徒も多かった。

その流れの中で『特別支援保育』の授業中に実施された「障害理解の絵本」の紹介は、学生にはどのようなものとして印象付けられたのか。今回の質問内容では、問 10 が最も関係があり、問 11・問 12 も関係づけられる内容になると推測される。アンケート結果を振り返ってみると、問 10 の「今回の授業で、絵本の効果には様々なものがあることが分かった」に関しては実に 100%の学生が「①そう思う」と回答した。

多くの学生にとって、幼いころの絵本の感想やイメージは「絵が好き」「可愛い」「面白い」等が主なものであることが多い。しかし、この授業で紹介された絵本のように、絵本には様々なジャンルがあり、そこから得られるものも様々であることを知る。授業で紹介された絵本のように、障害を取り扱ったものもあるし、ほかにも作者の伝えたい思いやメッセージが含まれていたり、時には重いテーマを伝えている絵本もあることに気づく。続く問 11 と問 12 では、絵本を知ることが保育者になることへの不安を軽減させるか、また保育者としてもっと絵本について学びたいかを訊いているが、「絵本」という身近にあって、手に取りやすいと感じていた媒体が、実は色々なことを理解する上で、プラスとマイナス両側面の意味を持っているのではないかと感じ始める学生も出てくる。半数の学生は効果があったと感じているが、効果がなかったと答えた学生にも、さらなる課題への取り組みの必要性を感じさせたと張は結論付けているが、いずれにしても「絵本」という媒体の持つ

さまざまな可能性について、改めて知る、良い機会の提供になったのではないかと推測される。

次に入学前課題「絵本を読む」と、『発達心理学』の授業外課題「絵本ノート」との関わりについてまとめる。

授業の初回に実施した調査では、入学前課題「絵本を読む」については、久しぶりに触れた絵本に、懐かしさを感じたり、子どもの頃を振り返ったりしたものが複数いた。また、こういう機会を作ってもらえたこと、そのものに感謝するコメントも見られた。また、保育者を目指すにあたり、どんな絵本が子どもに楽しんでもらえるのか考える機会にもなった。

一方で、子どもの頃、そして普段も絵本を読んで感想を考えることはあまりないので、改めて感想を求められると困ってしまう生徒も多かった。また、絵本の中には文字が少ないものもあり、文章が少ない絵本は特に、感想を書くのに苦労したようであった。またあらすじを書くのに苦労したものも多かった。

しかし同時に、大人の視点から見ると絵本はまた「新たな発見」もあり、それが面白くも感じられた。また同じ絵本でも、感じ方や解釈が当時とは異なることへの気付きや、知らず知らず子どもに読んで聞かせる時のこと、絵本の対象年齢などについて考えている自分に気づくこともあった。絵本の持つ魅力を改めて認識した時間であったかもしれない。

この課題を経験した後、『発達心理学』の授業外課題として挑戦するのが「絵本ノート」15冊以上である。入学前課題「絵本を読む」での気づきや苦労は「絵本ノート」を作る際、具体的にどこが役に立ったか、本論文の中心となるテーマであるが、学生の自由記述内容から、主

なものを上げて考察してみたい。

「絵本ノート」は絵本の題名・著者・出版社・イラスト・絵本の内容を要約した文章・自分なりの感想やおすすめポイント等を分かりやすいようにまとめるもので、入学前課題「絵本を読む」に比べると、1冊の絵本に関して多くの情報をまとめる必要があり、A4サイズの紙にイラストや文章をうまくレイアウトするセンスなども要求される課題である。

今回の調査でまず分かったことは、入学前課題「絵本を読む」を経験したことで、絵本を読んで「感想」等が求められる場合、絵本のどこに注目したらよいのか、その「視点」が身に付いたと答えた学生が多かったことである。また基本的なあらすじや感想の書き方も、「絵本を読む」で苦労しながら経験したことが、今回役に立ったと感じた学生も多かった。つまり結果的に、「絵本ノート」を作成するために必要な、絵本の内容を要約することや感想を書くことの「予習」の役割を入学前課題「絵本を読む」が果たしており、結果的に、この課題を経験することなく「絵本ノート」作成に取り掛かるより、よりスムーズに取り組むことができたのではないかと推測された。

このことは、絵本を選ぶときの注目点にも反映されている。絵本が何を伝えたいのか、絵本の構成、子どもが喜ぶ仕掛け、擬音語の効果、筆者が子どもに何を伝えたいのか等も注目しながら、「絵本ノート」でとりあげる絵本を選んだと答えた学生も多かったが、その背後には、将来自分が、保育の現場で、実際に子どもたちに読み聞かせをする時のイメージが思い描かれているようにも感じられた。

『発達心理学』は1回生前期に開講される科目で、学生はまだ実習を経験していないが、心の中では、すでに保育者としての自分のイメージ

がぼんやりと出来上がりつつあるのかもしれない。

以上が、入学前課題「絵本を読む」での学びが、入学後の『特別支援保育』『発達心理学』の授業の中で、どのように生かされるかについてまとめたものである。

今回のアンケート結果を振り返ると、なにはともあれ、まずは幼いころ親しんでいた「絵本」に再び触れることから始まるのであろうと感じた。その意味でも入学前課題「絵本を読む」の果たす役割は大きかった。そして次に、実際に手に取って、読んでその感想を求められたとき、当時とは異なる、自分の中に湧き上がる様々な思いを経験することが次のステップとなった。その思いを事前に経験する機会を提供したという意味でも、入学前課題「絵本を読む」の持つ意義は大きかったと言える。

今回取り上げた2つの科目だけでなく、幼児教育学科では複数の科目で「絵本」も利用したさまざまな授業を展開している。これらすべての授業が、「絵本」の持つ様々な可能性について学生への気づきを促し、自分自身の利用方法を模索していくきっかけ作りとなっている。

「絵本の選び方」や、「何を目的にこの絵本を読み聞かせたいか」等については、入学後、実習経験を積み重ねることによって、より具体的なものとなっていく可能性もあるであろう。また前述のように、本学では2021年度から「認定絵本士養成講座」が立ち上がった。その気になれば、絵本に関する更なる学びを深めることも可能な環境が整ったのである。「絵本」に関心のある学生は、ぜひここでも学びを深めて欲しいと思う。

いずれにしても、2年間という大変短い期間で幼稚園教諭と保育士という2つの資格を取得して卒業する学生が多い本学において、時間割はかなりタイトなものになっており、学生は日々の生活に追われている感じが否めない。無理をせずに、自然に過ごす学校生活の中で、気が付けば多くの「絵本」に触れていたと思えるような、生活の中に埋め込めるような「絵本」の提供の仕方を、今後も探っていきたい。

参考文献・参考サイト

- 1) 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ(編) 認定絵本士養成講座テキスト 中央法規出版(2020)
- 2) 寺村輝夫・渡辺めぐみ 保育現場における絵本の役割(その3) 文京女子大学研究紀要 第1巻第1号 113-127 (1999)
- 3) 小寺玲音・瀧川光治・玉置哲淳 保育実践における絵本の持つ意味に関する考察 エデュケア 25 31-45 (2005)
- 4) 鳥丸佐知子 魔法の宝箱『図書館』あーゆす(2009)
- 5) 鳥丸佐知子「絵本ノート」再考 日本発達心理学会第25回総会発表論文集(2014)
- 6) 鳥丸佐知子「絵本ノート」再考 京都文教短期大学『研究紀要』第53集 1-12 (2015)
- 7) 子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究報告書
https://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/72/ (2013) (2022年10月24日検索)
- 8) 張貞京 入学前課題「絵本を読む」は『特別支援保育』の授業でどのように生かされるか(仮題)
(幼児教育学科2022年度入学生対象の入学前教育アセスメント報告書)(2022)

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、資料提供のご協力をいただきました、京都文教短期大学の張貞京氏に、感謝申し上げます。